



衝撃の10日間

明治大学情報コミュニケーション学部3年

小川遥

私はこの短期研修に参加するにあたって、友人や家族から「なぜ参加するのか」「10日間で何ができるのか」ということを何度か尋ねられました。その度、「タイなどの東南アジアに興味があるから」といったような、抽象的な言葉でしか返すことができませんでした。正直、具体的な目標をもって参加を試みたわけではなかったため、この質問をされる度にモヤモヤとした気持ちが増していました。

しかし今、研修から帰ってきて思うことは、軽い気持ちで参加できる手軽さこそがこの研修の一番の長所なのではないかということです。海外への短期研修であるにもかかわらず、語学が堪能であることや成績が良いことなどがそれほど重視されません。そのため海外に初めて出るという人も多くいました。私も初めて海外に出た時の衝撃は今でも忘れられません。初めての海外を早めに経験することで早いうちに視野が広がり、将来さえ変わってくると私は思っています。



さらに、タイの学生は自国語のタイ語、英語はもちろんのこと、日本語もコミュニケーションで困らない程度に習得していました。私達日本の学生はこのことに大変ショックを受けました。これから英語だけでなく第二外国語への勉強に精が出る者も現れると思います。もちろん私もその一人で、英語ができるのは当たり前くらいに気持ちが必要なのだとこのことを身をもって感じました。

タイで感じた様々な衝撃をこれからも忘れずに、将来のために精進しなければならないと思っています。この短期研修が、参加した全員の将来へのスタートになりました。貴重な経験をありがとうございました。